

ホワイトバス (*Morone chrysops*) に関する情報

原産地：北アメリカ

定着実績：なし

被害の実態・被害のおそれ

- 大型になるスズキ亜目の魚食性淡水魚であり、導入されれば捕食や競合により在来生物相に影響を及ぼすおそれがある(文献)。
- 北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、日本全国への定着の可能性が想定される。

被害をもたらす要因

生物学的要因

- 北アメリカ原産のため、冬の低水温に耐え、日本全国で生息が可能である。
- 原産地では、河川緩流域、湖沼に生息する。
- 最大で全長 45cm に達する大型の上位捕食者であり、成魚は主に魚類や甲殻類、水生昆虫などを捕食する。群れで行動し、索餌しながら移動するとされる。
- 春から初夏にかけて産卵する。成熟した雌は群れを成し、湖や川の岸に集まる。水温は 14～21 。卵は直径 0.8mm ほどで重く、粘着性があり、水底に沈むと小石や岩、水草に付着する。産卵数は比較的多く 240,000～930,000 個で、平均 565,000 であったと記録されている。産卵期は春(水温が 16 度に達した時期)で、産卵場所は河川や湖の岸辺などである。
- 卵は 15.6 で 46 時間後にふ化し、秋には 12～16cm になる。3年で 27 から 28cm で成熟するが、7年以上生きる個体は少ない。
- 一日に 11km 移動するという報告がある。
- 回帰性があり、毎年同じ産卵場所に多くの個体が戻ってくるとされる。

特徴ならびに近縁種、類似種について

- スズキ型の体形をしており、体色は白銀色で、体側に細く薄い縦線が入る。
- 日本に同属種は生息していない。

その他の関連情報

- メキシコ、プエルトリコ、イスラエル、中国などに導入され、メキシコで定着している。在来魚への影響については不明である。

- *Morone* 属 4 種はイングランド、ウエールズにおいて大臣の許可なく保有、放流することが禁止されている。
- アメリカ南部ではメスのホワイトバスの卵にオスのストライプトバスの精子をかけた交雑種(サンシャインバス)の養殖が行われている。
- サンシャインバスは、近年、霞ヶ浦で捕獲された。1960 年、同属のイエローバス (*Morone mississippiensis*) が導入され飼育されたが死亡した。
- 原産地などでは釣り魚として人気種である。
- 茨城県では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。

主な参考文献

FishBase (www.fishbase.org)

Fuller, P. L., L. G. Nico and J. D. Williams (1999) Nonindigenous fishes introduced into inland waters of the United States. American Fisheries Society, Special Publication 27, Bethesda, Maryland

Lever C (1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press. Xxiv+408 pp.

水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所(1987)外国産新魚種の導入経過 157 pp

上野輝彌 (1992) *Morone chrysops*. 移入すれば問題になり得る主な外国産魚種に関する文献調査(水産庁編). p. 94-95